

「静かなる仏教美術の聖地」に赴任して

奈良国立博物館長 井上 洋一



松本伸之前館長の後を引き継ぎ、本年四月一日より館長に就任いたしました。

私は一時期、学芸部長として九州国立博物館（以下、九博）に赴任したことはありますが、およそ四十年にわたり東京国立博物館（以下、東博）で過ごし、専門は日本考古学。中でも銅鐸を中心に日本の青銅器文化の研究を行っております。また長年にわたりこの世界に身を置いてきた関係から博物館学に関する研究もあわせて行っております。

日本考古学の研究員から出発し、教育部門や企画部門の責任者を経て、副館長に。この間、国内のみならず海外の多彩な文化財に光を当てた数々の特別展にも関わり、世界各地を巡ってきました。そこで出会った方々からは実に多くのことを学ばせていただきました。その方々との出会いは今でも私の大切な宝物となっています。

また私は学生時代からシリアの発掘調査に携わり、東博に採用されてからも、シリアでは発掘調査だけでなく、イタリアで文化財の保存修復に関する理論と技術を学んだ経験を活かし、アイン・ダーラという神殿遺跡の保存修復プロジェクトにも参画してきました。しかし、IS（イスラム国）やトルコ軍の暴挙によって、これらの遺跡は無残にも破壊され、さらには、お世話になったバルミラ国立博物館のアサド元館長がISに拘束され、拳銃の果てに斬首刑に処されてしまいました。そのニュースを知ったとき、悲しみを通り越し、怒りで体が震えたことを今でもよく覚えています。

こうした「文化の抹殺」ともいえるべき蛮行は何もシリアだけで起こっていることではありません。例えば、アフガニスタンでは、かつてソ連侵攻やタリバンによる攻撃によ

り、多くの貴重な遺跡や遺物が破壊されるとともに国立博物館も甚大な被害を受けました。しかし、戦禍の中、死を恐れず、命がけで貴重な博物館資料を守り抜いた博物館の職員たちがいました。そのお陰で貴重な資料は守られ、その後、極秘にフランスに運ばれ、特別展として一般に公開され脚光を浴びることになります。そしてそれらは現在も国際巡回展というかたちで世界各地をまわり、その価値とそれらを育んだアフガニスタンの歴史と文化の重要性を世界の人々に訴えています。日本でも二〇一六年に九博と東博で開催されました。彼らはなぜ死を覚悟してまで資料を守り通したのか。その答えは、タリバン政権崩壊後に国立博物館の入り口に掲げられたメッセージにあります。「自らの文化が生き続ける限り、その国は生きながらえる」。このメッセージは、単に未来に向けてのアフガニスタンの人々の強い意志を示すだけでなく、全世界の人々に向けられたものでもあると思います。

人間はパンやお米といった食物がなければ生きていきません。しかし、そこに豊かな心がなければ、人間らしい生活は送れません。その豊かな心を育むのが文化です。文化は人間生活において極めて重要なものだと思います。

このメッセージに込められた真の意味を多くの方々が、すばらしいアフガニスタンの秘宝の輝きとともに心に刻んでくださることを願っています。

ところで、私はこれまでに奈良の数々の寺社の特別展の企画と運営にも携わってきました。また、奈良には私が専門とする考古学の二大聖地があります。奈良文化財研究所と橿原考古学研究所です。学生時代からこの二つの研究機関の先生方にはいろいろと指導を賜り、貴重な遺跡の発掘調査の状況も見させていただきました。こうしたことから奈良には格別な思いもあります。

聖地といえば、私にとって、奈良国立博物館（以下、奈良博）は「静かなる仏教美術の聖地」です。まさか、私とその聖地の館長になるとは誰が予測されたでしょうか。しかし、任命されたからには、もとより非力ではありますが、今までの伝統を重んじつつ、そこに革新性を採り入れながら多くの方に愛され、親しまれる博物館を目指しがんばりたいと思います。

そしていま、コロナ禍で社会全体が厳しい状況だからこそ、なぜ博物館が文化財を収集、保管、展示をするのか、その基本に立ち返りたいと思います。

博物館資料はさまざまなことを私たちに教えてくれます。歴史、伝統、文化、環境、美、

悪い、そして生きていくためのさまざまな知恵。さらに戦争の悲惨さ、人間の愚かさ、そして平和も同時に教えてくれます。学芸員によってもたらされた学術的・芸術的なさまざまな情報をもとに展示された資料を鑑賞することによって、来館者はそこから多くを学び、豊かな感性を育むことができます。だからこそ博物館にはその資料を守り、その価値を十分に理解し、その価値を来館者のみならず広く市民に伝える重要な役割があるわけです。

博物館を通して得た豊かな心は、精神的豊かさや生活の質の向上を重視する平和で自由な成熟社会を根底で支える哲学を創造する原動力となるはずですが、それが結果として市民のための博物館の形成につながり、博物館が単なる知の宝庫としてだけでなく、市民が心豊かに平和で健全な生活を営むための真の社会教育施設へと成熟していくのだと思います。

現在私たちはコロナの影響で心が尖り、なんとなく社会全体がギスギスしているように感じませんか？もし、そう感じたら、是非、近くの博物館・美術館に足を運んでみてください。そして、ゆっくり自分のお気に入りの作品と対話をしてみてください。きっと、心が丸く、気持ちが落ち着くと思います。

不安で先がよく見えないこういう時だからこそ、心を豊かに保つため、文化・芸術は私たちの生活に必要な不可欠なものです。そして、現状を冷静に分析するためには歴史に学ぶ必要もあります。

私は医者ではありません。ですので、人の命を救うことはできません。しかし、私は、文化・芸術の力で人の心は癒せると信じています。そして、一歩踏み込んで言えば、われわれは、文化・芸術の力で人の心癒す、人の心を守るエッセンシャルワーカーでもあると思っています。人は心が折れたら健全な社会生活が営めなくなってしまうます。それゆえ、その具現化のためにも、誰もが安全で、安心して楽しむことができる博物館を目指さなければならぬと思っています。

心を守り、心を健康にする栄養とエネルギーの補給のため、そして、心たおやかにこの時代を生き抜くためにも博物館はなくてはならない存在なのです。

最後に。私には野望があります。そのひとつは私がこれまでさまざまな形で関わってきたイタリア、トルコ、シリア、アフガニスタン、パキスタン、中国、韓国、そして奈良を繋ぐ、大シルクロード展の開催です。そしてもうひとつ、「日本に行ったら、奈良に行ったら、是非、行きたい博物館」、否、「奈良博を観るために奈良に行きたい」と思っていただけのような博物館を夢見ています。

「夢見ることができれば、それは実現できる」。このウォルト・ディズニーの言葉を胸に精進するつもりです。どうぞよろしく願いいたします。

◆奈良国立博物館賛助会

令和3年7月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員4団体、一般会員(団体)16団体、一般会員(個人)75名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、小山(株)、茶道裏千家淡交会奈良支部、オフィス・カワイ、(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔個人会員(新規)〕 安達 務様 令和3年4月ご入会
福田 陽造様 令和3年5月ご入会

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内



当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。令和3年4月より、Webからの購入が可能になりました。

詳しい情報は左記QRコードからご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。



プレミアムカード



メンバーズパス



【表紙解説】

伽藍神立像

がらんしんりゅうぞう

木造 彩色
像高五六・三cm
鎌倉時代(十三世紀)
当館

この像は、大正六年(一九一七)に出た売目録(オークション・カタログ)に「一 運慶作木彫走り大黒天(中略)大隅志布寺伝来」と紹介されていた。以来、当館の所蔵品になってからも「走り大黒」の通称で親しまれてきた。ところが、十年前程に、このようなポーズの像が、禅宗の寺院などで祀られる伽藍神だと判明したのである。それは、走り回る福の神ではなく、修行を怠る者を懲らしめるために釘と槌を持って走り回る、お寺の見回り役だという。それを知ると、ユーモラスな姿がちよつと恐ろしい姿に見えるてこないだろうか。

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

◆特別展「奈良博三昧―至高の仏教美術

コレクション」にて展示